

# 第14回 小笠原航空路協議会

令和7年7月25日（金曜日） 15時00分～

# 第14回 小笠原航空路協議会 次第

## 1 開会

## 2 議事

- (1) 小笠原航空路に係る令和6年度調査結果・検討状況
- (2) 小笠原航空路に係る令和7年度調査事項
- (3) 小笠原航空路PI評価委員について

## 3 質疑・意見交換

## 4 閉会

## 小笠原航空路協議会設置要綱（設置）

第1条 小笠原諸島における本土との間の航空路開設についての検討を進めるにあたり、関係者間の円滑な合意形成を図ることを目的として、小笠原航空路協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議内容）

第2条 協議会では、次の事項について協議する。

（1）小笠原諸島における航空路に関すること

（2）パブリック・インボルブメント（以下「P I」という。）の

円滑な実施に関すること

（3）その他

（構成員）

第3条 協議会の構成員は、別紙のとおりとする。

（会長）

第4条 協議会には会長を置き、東京都総務局長がこれにあたる。

（招集）

第5条 協議会は、会長が招集する。

2 会長は、必要に応じて構成員以外の者の出席を求めることができるものとする。

（小笠原航空路P I評価委員会）

第6条 協議会には、別途小笠原航空路P I評価委員会を設置する。  
なお、小笠原航空路P I評価委員会の要綱は別に定める。

（協議会の公開）

第7条 協議会は、原則として公開とする。

（事務局）

第8条 協議会の事務は、東京都総務局行政部振興企画課で処理する。

（その他）

第9条 その他、協議会運営に必要な事項は、協議会が定める。

## 第14回 小笠原航空路協議会構成員名簿

敬称略

職名	氏名
国土交通省 国土政策局長	佐々木 正士郎
東京都 総務局長	佐藤 智秀
東京都 港湾局技監	村田 拓也
東京都 政策企画局政策部長	大出 仁
東京都 都市整備局 航空政策担当部長	村上 清徳
東京都 環境局環境政策担当部長	三浦 亜希子
東京都 環境局自然環境部長	宮武 和弘
東京都 港湾局離島港湾部長	原田 和生
東京都 港湾局 島しょ・小笠原空港整備担当部長	松本 祐一
東京都 総務局行政部長	田中 角文
東京都 総務局 小笠原・国境離島担当部長	近藤 豊久
東京都 総務局小笠原支庁長	大場 雄二郎
小笠原村長	渋谷 正昭
小笠原村議会議長	池田 望

## ATR42-600S



### 【機材の特徴】

- 国内航空会社が定期便に利用しているATR42-600の派生型機としてEASA（欧州航空安全機関）の型式証明の取得に向けて試験を行っていた
- 小笠原において、1,000m程度の滑走路で離着陸可能

### 【開発状況】

ATR社  
プレス  
情報  
(R6.11)

- 東南アジアなど、滑走路の延長や代わりとなる空港の建設により、短距離で離着陸可能な航空機を必要とする空港が減少
- 市場状況、技術進歩、将来予測を総合的に判断し **開発中止**

航続距離	1,537km
座席数	最大48席
巡航速度	556km/h
必要滑走路長	1,000m

## AW609



### 【機材の特徴】

- 世界初の民間型ティルトローター機
- 滑走して離着陸する場合、400m程度の滑走路があれば、離着陸可能。また、ヘリポートでも離着陸可能
- 飛行機とヘリの機能を併せ持つ航空機であるため、法令整備が必要となる可能性

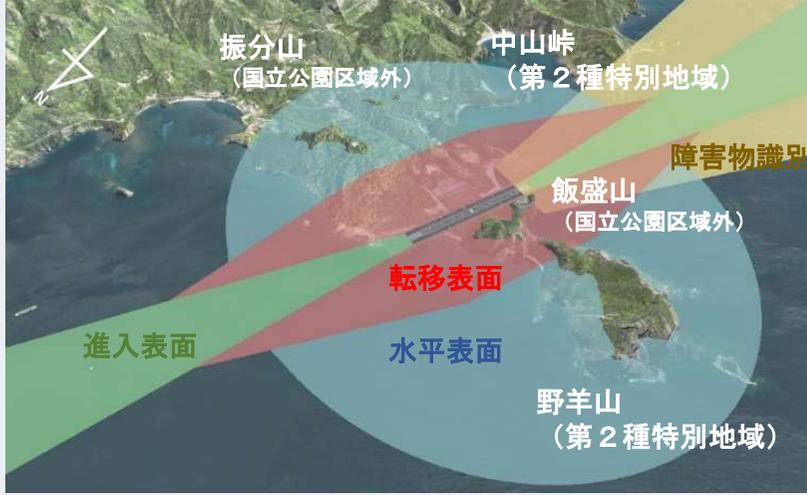
### 【開発状況】

- 米国のFAA（連邦航空局）の型式証明を申請中
- メーカーによると、FAAによる型式証明の取得は2025年中の見込み

航続距離	1,240km
座席数	最大9席
巡航速度	509km/h
必要滑走路長	0～400m

※機材情報は、カタログ値及び各航空機メーカーより聞き取りを行った情報、なお、性能は、外気温や搭載重量により変化するため、画一的な性能を示すものではない。

AW609が「飛行機（固定翼）」に分類された場合の施設配置案について、第13回小笠原航空路協議会で示した「滑走路400m + α」案の制限表面範囲等を検討し、地形との抵触状況を確認する。

飛行方式	計器飛行方式（IFR）が可能な施設 ※南側のみ
検討条件	滑走路長：400m + α 標高：約25m 配置：制限表面への影響を可能な限り抑制
施設及び制限表面等のイメージ	
海域への突出	あり
転移表面の切土範囲	<u>野羊山</u> 及び飯盛山の一部
水平表面の切土範囲	<u>野羊山</u> 及び振分山の一部

- ➡ ・ 飛行機（固定翼）用施設案の制限表面が適用される場合、国立公園区域（第2種特別地域）である野羊山が水平表面及び転移表面に抵触
- ・ 水平表面については、抵触する地形の残置に向けて、飛行の安全性を確保するための検討を行う必要

※ 今後、メーカーが型式証明を取得し機体性能等が確定した段階で、施設配置案の精査が必要

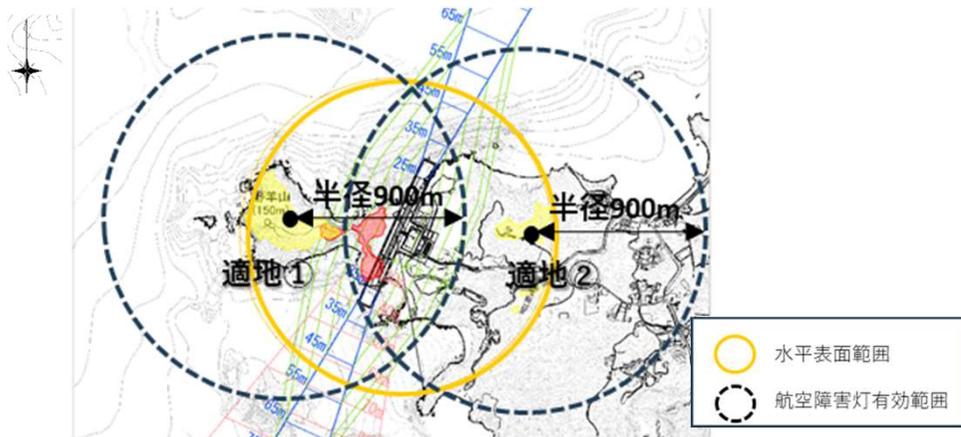
## ①航空障害灯の配置検討

○水平表面に抵触する地形を残置した場合においても、飛行の安全性の確保を図るため、野羊山等への航空障害灯の配置を検討

### 【適地の選定】



### 【航空障害灯の配置レイアウト案】



### 【検討結果】

- ・有効範囲半径900mの航空障害灯を2か所設置することで、水平表面に抵触する地形の範囲をカバーできるため、より飛行の安全性の確保が可能

※①②ともに「滑走路400m + α」案（計器飛行方式）

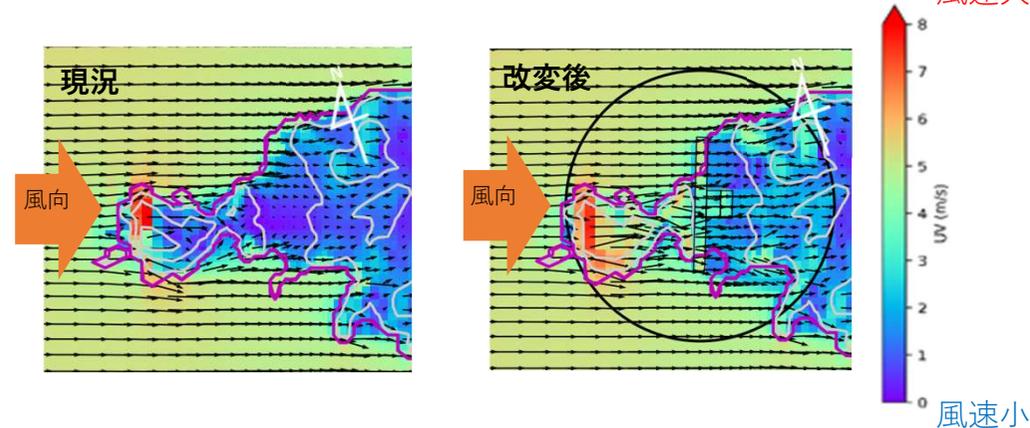
## ②気流シミュレーションの実施

○水平表面に抵触する地形を切土した場合において、運航に影響を与える可能性がある、滑走路の横風方向の風速等をシミュレーション

### 【比較条件】



### 【気流シミュレーション結果（西側から吹く風の場合）】



- ・制限表面の切土により、全方位で風速が増す傾向
- ・特に飛行場周辺では、西側から吹く風が強くなることから、野羊山により滑走路の横風方向の風速が低減される傾向

令和5年度に実施したオガサワラオオコウモリの夜間調査において、有識者にヒアリングを実施した際、父島に生息する個体が昼間にも活動していることが確認された。このことから昼間の飛翔状況について調査する。

## （1）目的

- ・コウモリと航空機との衝突（バットストライク）の発生頻度と飛翔高度の関係については、オーストラリアに生息するオオコウモリの調査※において、ある一定の高度（約150m）において発生頻度が突出していることが確認されている。
- ・父島に航空路を開設するに当たり、オガサワラオオコウモリについてもバットストライクのリスクを検討するため、昼間の飛翔傾向について把握する必要がある。

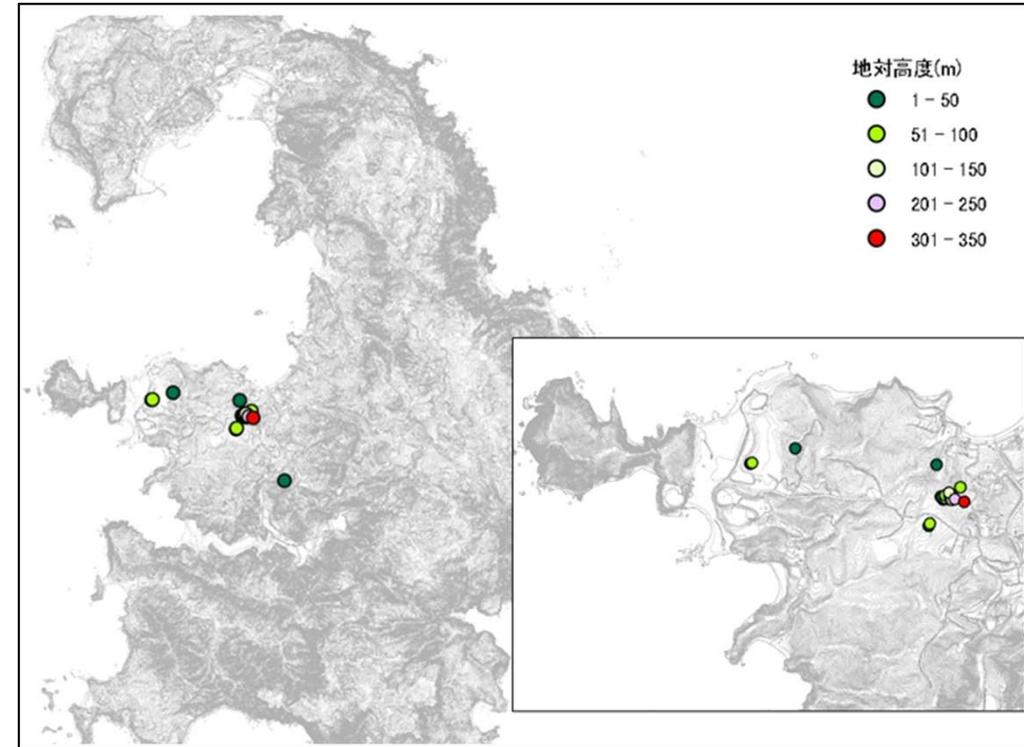
※ オーストラリアには、メガネオオコウモリ、クロオオコウモリ、ハイガシラオオコウモリ等の生息が確認されているが、実際に航空機と衝突した種は特定されていない。

## （2）手法

- ・扇浦周辺に生息する個体を捕獲し、個体の大きさなどを考慮してGPS発信器を装着し放獣。6個体から取得された位置情報データから、詳細な飛翔高度及び地点を特定

## （3）結果

- ・昼間の飛翔高度は地上から350mの広範囲に及ぶものの、主に30～90mの中低高度帯に全体の約73%が集中し、特に40～50m高度での飛翔頻度が最も高かった。



オガサワラオオコウモリの飛翔地（日没前）



オガサワラオオコウモリ捕獲トラップ



捕獲したオガサワラオオコウモリ

## 令和7年度調査のポイント

### PI・航空機等調査

#### ○ 航空機等調査

- 1,000m以下の滑走路で運用可能な機体であるAW609の詳細な機体性能の情報収集や、技術開発の進展も踏まえた他の機体に関する調査を引き続き実施
- 運航事業者の知見等を得て小笠原への運航可能性に関する詳細検討を継続

#### ○ PI実施に向けた内容検討

- 構想段階パブリック・インボルブメント（PI）の具体的な実施内容を検討

### 空港計画調査

#### ○ 配置・構造・工法等の検討

- 想定される航空機に対応した洲崎地区の飛行場施設について、自然環境への影響や運航事業者等の知見を踏まえ、配置を検討し、構造・工法を更に検討

### 環境調査

#### ○ カサガイの生息状況等調査

- 都条例に定める環境影響評価手続に向けて、専門家の意見を踏まえた事項（天然記念物であるカサガイ等）の調査を実施し、環境配慮書案を更新



カサガイ（天然記念物）

#### ○ ユネスコ世界遺産センター提出資料の内容検討

- 航空路開設等がOUV（固有植物、陸産貝類）へ与える影響について、遺産影響評価を行うための検討事項を整理し、専門家へのヒアリング等を行うことにより評価手法を検証

◎ 村民生活の安定と小笠原諸島の自立的発展、更には村民の安心・安全を守るため、**貴重な自然環境と調和した航空路の実現**を目指し、**関係機関と緊密な連携**を図りつつ、パブリック・インボルブメントの円滑な実施に向けた**準備を着実に進めて行く**。

## 小笠原航空路P I 評価委員（案）

（敬称略）

### 1. 行政手続に係る法制度について専門的知識、知見を有する者

#### 大串 葉子（オオグシ ヨウコ）

現職	同志社大学大学院ビジネス研究科 教授
略歴・在任	社会資本整備審議会（国土交通省） 委員
	交通政策審議会（国土交通省） 委員
	一般財団法人国土技術研究センター 理事
	都心部・臨海地域地下鉄構想事業計画検討会（東京都都市整備局） 委員 ほか

### 2. 航空行政について専門的知識、知見を有する者

#### 海谷 厚志（カイヤ アツシ）

現職	京浜急行電鉄株式会社 顧問
略歴・在任	元 国土交通省大臣官房審議官（海事局・港湾局・総合政策局）
	元 国土交通省大臣官房公文書監理官
	元 国土交通省航空局 次長
	元（一財）運輸総合研究所 主席研究員兼事務局長
	元 国土交通省海事局長 ほか

### 3. 小笠原の自然環境について専門的知識、知見を有する者

#### 吉田 正人（ヨシダ マサヒト）

現職	筑波大学 名誉教授
略歴・在任	小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会（環境省） 委員長
	中央環境審議会総合政策部会環境評価小委員会（環境省） 委員
	国内希少野生動植物種専門家科学委員会（環境省） 委員
	IUCN World Commission on Protected Areas, Species Survival Commission 委員
	UNESCO Earth Network 委員 ほか